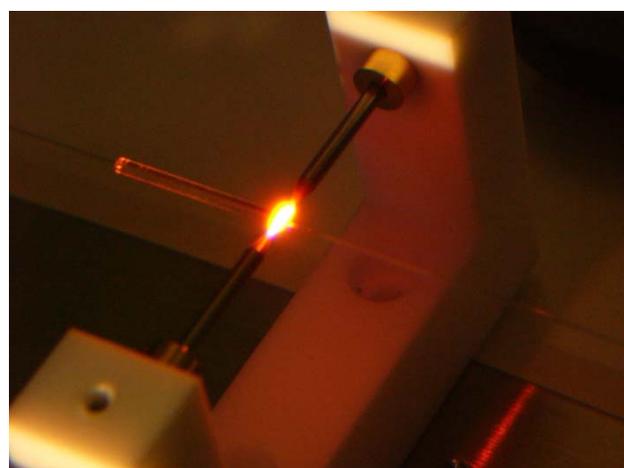
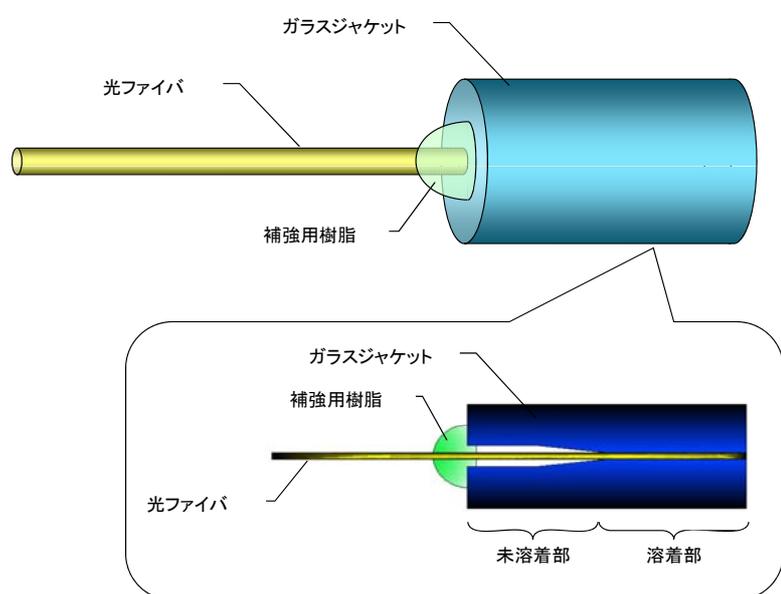


Process Technical Report II

加工技術の紹介 II

■溶着技術（ジャケット化）

光ファイバにガラス管を被せ、ガラス管を加熱溶融し光ファイバとガラス管との隙間を埋め一体化することで、任意外径のファイバを作製することが可能です。弊社の加熱溶融加工に用いる熱源には、放電、抵抗加熱炉、マイクロトーチを用意してあります。



ジャケット化時の写真

●特徴

ジャケット加工によって、光ファイバのようなフレキシブルな素線をリジット化し、プローブとして取り扱うことが可能です。また、ガラス管に石英よりも高い屈折率の材質を用いることで、クラッドモード除去等の光学機能を付与することが可能です。弊社のジャケット加工は接着剤を使用しませんので、高温（真空）環境化で使用可能です。

- ・接着剤レスのため、高耐熱性・高信頼性
- ・高屈折率ガラスのジャケット加工によって、クラッドモードの除去が可能
- ・光ファイバプローブとして使用可能（ジャケット化後先端加工等の実施可能）

<基本仕様>

適用ガラス管材質	ポロシリケート管 or 石英
適用ガラス管直径	250 μ m~3.0mm
適用ファイバ直径	125 μ m~2.0mm
一体化（溶着）長	5mm~20mm

Photonic Science Technology, Inc.

Tel : 0123-42-0575 Fax : 0123-42-0576 URL : <http://www.psti7.com>